

活き粋健康講座2月報告

日時	2018年2月24日 午後14:00~15:00
テーマ	地域包括医療 特に訪問診療・訪問看護について
講師	根岸 守 医師



2月の活き粋健康講座は、根岸 守 医師による「地域包括医療 特に訪問医療・訪問看護について」のお話でした。

健康寿命と平均寿命の差や高齢者に対する医療費の占める割合など、今後も加速する高齢化に対する医療制度改革の課題や視点を資料を用いてわかりやすく説明しました。

地域包括ケアシステムとは、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が提供されるシステムです。

保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき地域の特性に応じて作り上げていくことが必要だそうです。



最近、「終活」という言葉がよく聞かれるようになりました。厚生省や内閣府の調査では、年を取って生活したいと思う場所第1位は、第2位の介護施設・高齢者住宅を大きく引き離し、「自宅や子供の家」でした。

こうした望みを叶えるためにも、今後ますます訪問診療や訪問看護は必要とされることが予想されます。

これらのことから、質の高い在宅医療提供の推進、在宅療養支援診療所・病院の連携強化の重要性を学ぶことが出来ました。



「相性が合わなかったら、いつでも担当ケアマネは変更できる！」との助言を何度も繰り返された、根岸先生。より良い在宅医療・生活を送るためには、自分のため、家族のためにも出来るだけ情報収集や相談・支援体制を知っておくことも「終活」の一つなのかもしれません。

今後も活き粋講座では、さまざまなテーマを基に情報発信していきたいと思います。次回以降も情報収集の1つとして、皆様是非お越し下さいませ。